

【座長：熊川先生】

福岡県はそういう施設以外にも、小規模から中規模でさらに 400 施設あまりがございまして、多くの施設で輸血療法委員会が設置されていない状況で、現場の臨床検査技師、看護師の方が頑張っていると思います。

今日申し上げましたように、施設の方々に対して福岡県赤十字血液センターと協力して研修会を開いております。そういう施設において輸血療法委員会を設置していただき、活動を適正で安全な輸血をしていただきたいということで、実は昨年佐賀県が輸血療法委員会の設置を高めるために設置推進パッケージを作られて、佐賀県からいただきましたということを昨年の会議で報告いたしました。今の年度の中に、福岡県の中で福岡県の状況に合った形で設置推進パッケージを見直して、福岡県バージョンを作りました。ちょっと名前を変えて、輸血療法委員会スターターキットという名称にしています。

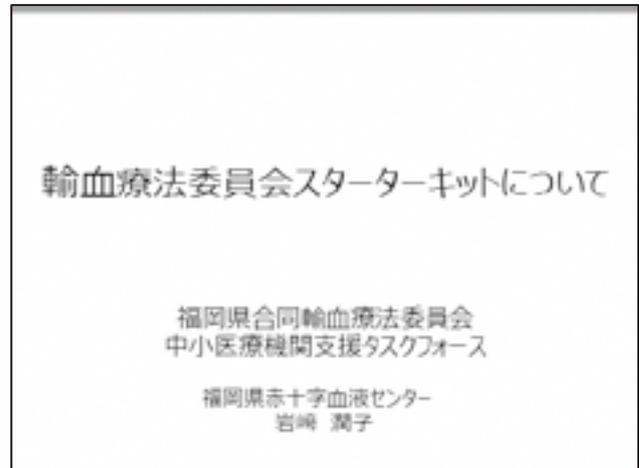
実際には、先ほどお話をしました毎年アンケートを答えていただいている施設の中に 10 施設あまり輸血療法委員会が設置されていない施設がございましたので、まずはその施設の方々に委員会の設置をしてくださいということで、スターターキットをお送りしています。

今からスターターキットの作製についてタスクフォースとして活躍されました福岡県赤十字血液センターの岩崎先生に、ご紹介いただきます。その内容を見ていただいて、ご希望がありましたら、受注生産で赤十字血液センターの学術課の方が事務局として作製していただいておりますので、お申込みいただければと思います。

それではよろしく願いいたします。

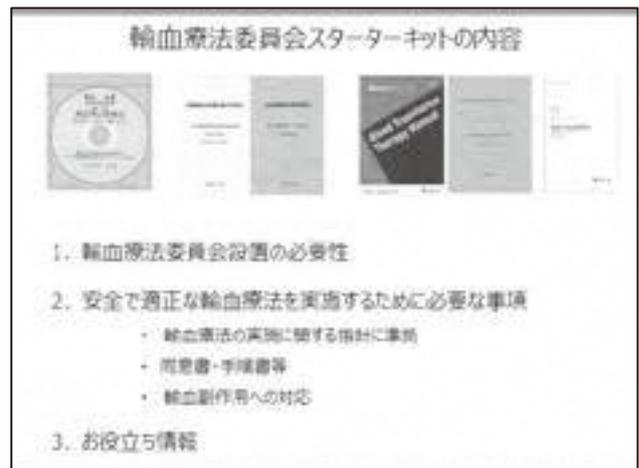
④ 「輸血療法委員会スターターキット」のご紹介

**福岡県赤十字血液センター 医務課
岩崎潤子**



熊川先生、ご紹介ありがとうございました。皆さん、こんにちは。福岡センターの岩崎と申します。どうぞよろしくお願ひします。今日は輸血療法委員会スターターキットについてということで、キットの内容をご紹介したいと思います。

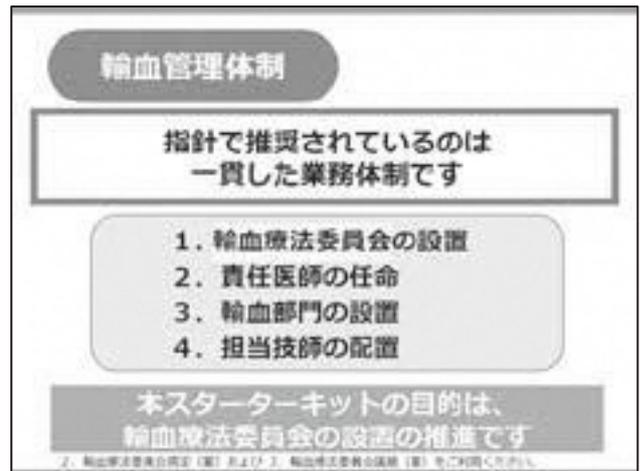
これまでのお話とはちょっと変わって、今から輸血療法委員会を立ち上げようという施設の方に助けになるような内容になっておりますので、輸血療法についての原則についてまとめた内容になっています。皆さんもぜひ自施設の状況を振り返りながら、聞いていただければと思います。



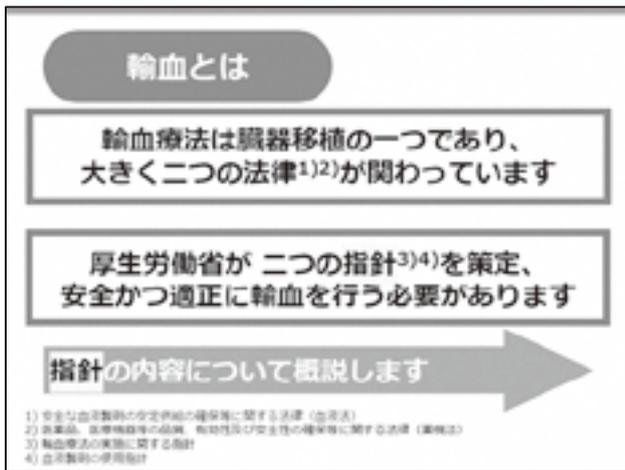
まずキットの内容ですけれども、このように CD と指針をセットにしたものになっています。CD の内容ですけれども、輸血療法委員会設置の必要性について、安全で適正な輸血療法を実施するために必要な事柄、そのほか発展編というような内容を収載しています。



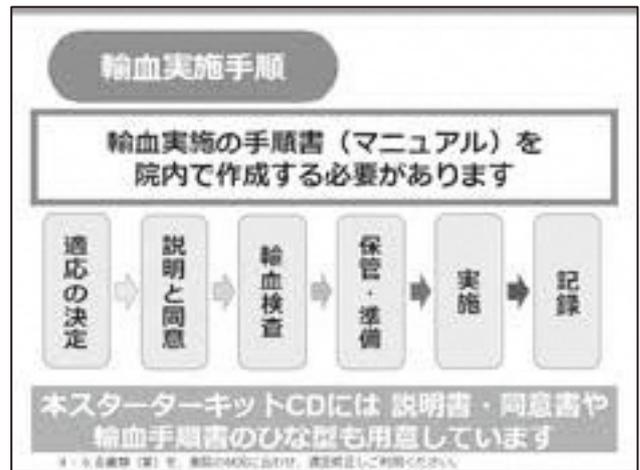
この中で輸血療法委員会設置の必要性に関しては、皆さんよくご存じのことですが、まず病院幹部の方、あとはスタッフ全体を説得して納得していただかないといけませんので、そういったことを意識しながら作ったものになります。



指針の中で推奨されているのは、一貫した業務体制であり、輸血療法委員会の設置というのが求められています。このキットの目的というのが、輸血療法委員会設置の推進ということになります。



まず輸血療法委員会設置の必要性についてお話ししたいと思います。皆さまご存じのように、輸血療法というのは臓器移植の1つであり、大きく2つの法律が関わっています。また、2つの指針がありまして、これに則って安全かつ適正に輸血療法を行わないといけない。輸血療法委員会の無い施設ですと、指針をまだ見られたことがない方もおられるかもしれないということで、まず指針の内容についてご紹介しています。



また、輸血療法を実施する施設では、手順書あるいはマニュアルを施設内に用意しておく必要があります。なかなか大変な作業になりますけれども、このCDに雛型を用意しています。



副作用内容の周知・早期発見というのも非常に重要な項目になります。

医療安全

輸血ミスは、医療全体の信頼を揺るがします

輸血関連患者死亡

インシデント対策も輸血療法委員会の必須議題です

輸血ミスがあると、病院にも大きな打撃になりますし、医療全体の信頼を揺るがす事態になります。こういったインシデントの対策というのも、輸血療法委員会の必須項目となります。

輸血管管理料

「安全」で「適正」な輸血医療が認められた場合には診療報酬が得られます

輸血管管理料 I
患者一人につき、当該月に1回 220点

輸血管管理料 II
患者一人につき、当該月に1回 110点

「輸血管管理料セルフチェック」で条件をご確認ください

安全で適正な輸血を実施するための準備をするというのは、なかなか大変なことでありますけれども、こういったことができてると認められた場合には、輸血管管理料という診療報酬が得られます。あとでご紹介しますけれども、輸血管管理料セルフチェックというもので確認することができます。

福岡県合同輸血療法委員会は皆さまの輸血医療を支援します

輸血療法の問題解決 地域での研修会の開催

輸血副作用の報告 輸血療法における質疑

まずは輸血療法委員会の設置をご検討ください

以上のことから、輸血療法委員会の設置をぜひご検討していただきたいという内容になっております。窓口に関しては、血液センターの学術課が担当しています。

輸血療法委員会 スターターキットCDの内容

- 1.はじめに お読みください(本スライド)
- 2.輸血療法委員会規定
- 3.輸血療法委員会議題
- 4.特定生物由来製品(輸血・血漿分画製剤)説明書
- 5.特定生物由来製品(輸血・血漿分画製剤)同意書
- 6.輸血実施手順書
- 7.輸血実施記録・副作用報告書

(参考)お役立ち情報フォルダ

では次に、輸血療法委員会を設置しようという時に、輸血を実施するために必要な帳票類ですが、これらについても CD の中にご用意しています。その内容を見ていきたいと思います。今日はスライドの6番と7番、お役立ち情報の一部をご紹介します予定です。

輸血実施手順書

輸血療法の実施に関する指針に準拠

下取り、Tipの重要なお知らせ

図や写真で分かりやすく

交差適合試験(クロスマッチ)

採定 採血機を採定する45度傾けた採血セット

輸血実施手順書のコピーをお手元に配布しておりますのでご参照ください。輸血実施手順書は基本的には指針に準拠した内容になっていて、必要なことをできるだけコンパクトにまとめるようにしました。例えば血液型の検査は2回行わないといけないというのは皆さんご承知だと思うんですけども、こういった重要なところに関しては下線を引いています。また、分かりにくいところについては図や写真を入れて分かりやすく、実際にマンツーマンでお話しするわけではないので、目で見て分かるような内容にしています。



こちらが輸血実施記録になりますが、これも指針に書いてある必要項目を一つ一つ書いていますので、これに沿ってやっていただくと重要事項の漏れが防げるという作りになっています。下半分に輸血副作用を記録する場所があるんですけども、混同されやすいのは輸血開始5分間、ずっとベッドサイドで観察しないといけない。そのところもここに5分間と書いてありますし、15分後終了時にも症状項目を記録するというのも見て分かるように工夫しています。



輸血副作用報告書に記載されている項目については輸血学会で検討されて採用された、標準化された項目を使用しています。また、症状項目をこの欄に書いていくと、ある程度鑑別診断で予想が付くというような作りになっています。

①輸血療法委員会	輸血療法委員会資料のひな型
②輸血の説明と同意	宗教的輸血拒否に関するガイドライン
	未成年者における輸血同意と拒否のフローチャート
	輸血・血漿分画製剤-回答説明資料 血漿分画製剤-回答説明資料
③輸血副作用	輸血副作用について
	輸血副作用の診断基準集
	輸血試験-不適合輸血発生時の対応 アナフィラキシーへの対応
④危機的出血	危機的出血への対応ガイドライン 産科危機的出血への対応指針2017
⑤輸血教育	e-ラーニングの紹介
⑥輸血管理科	輸血管理科セルフチェック

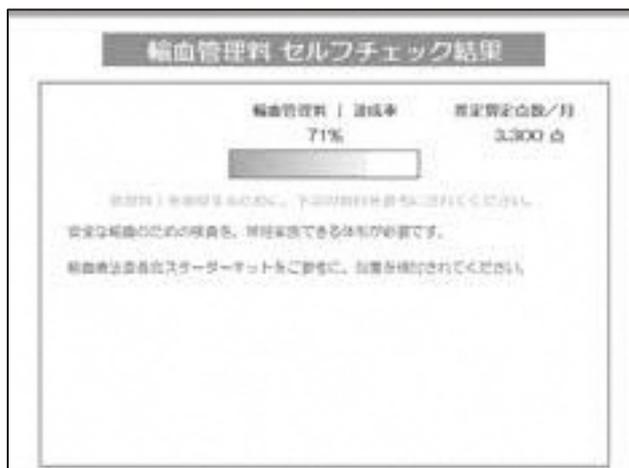
最後に、お役立ち情報フォルダの内容をご説明したいと思います。先ほどまでは基本的に必須の一番少ない量だったんですが、こちらは少し発展的な内容になっています。この中で副作用については学会が作成している副作用ガイドに基づいた内容をコンパクトにまとめています。また、アナフィラキシーの対応ということですが、冒頭に、輸血をすると年間に1500件ぐらいの副作用報告があるという紹介がありましたが、アナフィラキシーの報告も年間に400件ぐらいあります。滅多に起こることではないかもしれませんが、やはり前もって準備が必要かと思います。そういったことについて注意喚起をするような内容になっています。

また、e-ラーニングの紹介や、輸血管理科セルフチェック

というものも入れています。



輸血管理料のセルフチェックについて、ご紹介させていただきます。こちらは Excel で作ったものでして、輸血管理料を取得するために必要な7項目が自分の病院できているかどうか、「はい・いいえ」で選択していきます。そして1カ月間にどれぐらいの輸血が行われているのかというのを、ここに入力します。

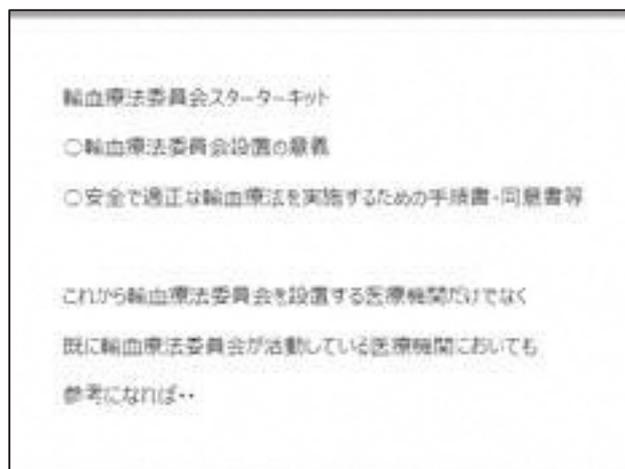


そうすると自分の施設では管理料を取得するための達成率としてどれぐらいなのか、取得すれば点数としてどれぐらいになるのかということが表示されます。また、自分の施設で足りないところはどこなのかというのが具体的に書かれています。

自分の施設の状況を客観的に見つめ直すツールになるのかなと思います。



輸血管理料Ⅱについてもチェックができるようになっていきます。



ちょっと駆け足でしたが、輸血療法委員会のスターキットというのは、輸血療法委員会設置の意義についてまとめています。また、安全で適正な輸血療法を実施するための手順書や同意書等を入れてあります。副作用についても詳しく説明しています。このキットがこれから輸血療法委員会を設置する医療機関だけでなく、既に輸血療法委員会が活動している医療機関においても参考になればと思います。以上で終わります。

【座長：熊川先生】

岩崎先生ありがとうございます。これで第1部を終了いたします。